

from 2020 to 2021



DAIICHI Group

株式会社 **ダイイチ**



特定非営利
活動法人

海の達人

一般社団法人

日本マリン無線協会
Japan Marine Radio Association

15 陸の豊かさも
守ろう



循環型社会づくり=SDGs=生物多様性による森づくりをめざします

「魂の森プロジェクト」スタート

馬ふん利用による自然堆肥の森づくりと食物栽培



地域の鎮守の森 尾前(おざき)神社を訪問、その土地にあった樹種を調査



植樹を成功させるための事前リーダー研修



タブノキ、モチノキ、マサキなど 24 種類 200 本の苗を準備



従業員をはじめ一般の方 約 150 名にご参加いただきました



お子さまにもたくさんご参加いただきました



敷き詰められたワラは表土を保全し苗が成長するころには土に還ります



2020 年 6 月 20 日 (土) 植樹祭
24 種類 200 本 植樹
於：海の乗馬倶楽部エルカバージュ
外乗コース北側



植樹祭の様子は
Youtube でもご覧いただけます。
https://youtu.be/JEo_9PpRfDg



本プロジェクトの主旨

5 年 10 年で樹林に成長 いつしか自然災害に強い「魂の森」へ

今回の植樹祭は乗馬クラブで排出される馬ふんに特許のミネラル触媒液を添加し約 6 か月かけて堆肥化させた肥料を約 50 トン使用しています。馬ふん→堆肥→魂の森再生→自然回帰という「自然環境の循環」をめざし循環型社会にどう貢献できるか挑戦をしています。植栽にあたっては横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の植栽方法「ふるさとの木によるふるさとの森」「滞在自然植生」方式をとりいれました。文化と自然と伝統を残し育てるそんな魂の森づくりをめざします。また、牧場内にある農場でも馬ふんを利用をした自然堆肥を使い、さつまいも作りをスタートさせ近隣の子ども達とともに食育講座もスタートしました。



ダイイチ食育講座ちびっこクラブ 自然堆肥によるさつまいも作り 「魂の森プロジェクト」 農場編

新聞社に取材を多数受けました。一部掲載記事をご紹介します。



全3回で食育講座を開催。馬ふん利用による自然堆肥を使い子ども達とともにさつまいも作りをしました。
【5/24：苗植え】 【7/26：観察・つる返し（雨天により現状報告）】 【10/25収穫・石焼きいも】 たくさんのご家族にご参加いただき収穫の喜び、生物循環の仕組みを学びました。馬とのふれあいを通じ情緒と創造性に満ちた豊かな心を育てていただきたいという願いを込めて活動しています。

中部経済新聞 2020年9月10日 木曜日

ダイイチ

改革に挑む 三重企業

ダイイチは、馬ふんを堆肥として活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

●三重支社 津市栄町4の255 津栄町三交ビル 3階
電話 059(228)2545 FAX 059(271)6311

●四日市支店 四日市市中浜町4の16 ロイヤルマンションHAMADA 208号
電話 059(354)6116 FAX 059(329)5333

マリナー河芸で森づくり 乗馬クラブの馬ふん活用

このほど、敷地内で植樹 長さ約100センチ、マサキを植樹し、同社従業員と地元の約150人が参加した。乗馬クラブの北側で植えた馬ふん堆肥は、約6月にかけて、冬の季節を防ぐ強い樹林に成長させようとしている。

同社は、1947年創業。当初はバイクと三輪自動車から始まり、60年代に入り、船の販売を手掛けている。現在は、乗馬クラブの馬ふん堆肥を活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。

中日新聞 2020年(令和2年)9月18日(金曜日)

マリナー河芸内の乗馬クラブ

ダイイチは、馬ふんを堆肥として活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

馬ふん堆肥で自然循環

ダイイチは、馬ふんを堆肥として活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

運営の「ダイイチ」 植林や野菜栽培

ダイイチは、馬ふんを堆肥として活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

日本経済新聞 2020年12月4日

三重・津の「海の乗馬倶楽部 エルカバージュ」

おでかけ スポット

ビーチの開放感 優雅に砂浜散歩

「海の乗馬倶楽部 エルカバージュ」は、馬ふん堆肥を活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

「海の乗馬倶楽部 エルカバージュ」は、馬ふん堆肥を活用し、自然堆肥によるさつまいも作りを推進している。馬ふん堆肥の活用は、環境にやさしい農業を実現する一環として、地域に貢献している。

ちびっこクラブの活動の様子が Youtube でご覧いただけます。

第2回ちびっこクラブ 自然堆肥による野菜作り
<https://youtu.be/11fee6ZS7mw>

第3回ちびっこクラブ さつまいもの収穫と石焼き芋
<https://youtu.be/v0s24HSqhb0>

14 海の豊かさを
守ろう



マリナ河芸航路に隣接した自然の宝庫「田中川干潟」 田中川干潟保全活動を開始して7年経ちました 生命循環による海の浄化作用を守り継ぐ



2014.3 第1回目となる保全活動を開始しました。



放置された家庭ゴミ・電化製品・家具



船などの大きな物もあります。



2015.11



2016.12 手で拾えない重たくて大きい
ゴミはユニック車を出して回収します。



2017.2



2018.2 マットレス



2020.12 第16回保全活動



2020.12月に実施した第16回保全活動の様子はYoutubeでもご覧になれます。

<https://youtu.be/YZSiEuzHoX8>

本プロジェクトの主旨

田中川干潟は多種多様な生物が見られ、希少生物も生息する県内でも数少ない干潟です。これまでダイイチグループでは田中川干潟の観察を通じて多くの子供たちに自然の大切さを体感してもらう活動を続けてまいりました。その大切な干潟に海や川からの浮遊物が長い年月の間に蓄積され、生態系への影響が、心配されてきております。しかしながら大量の堆積ゴミを処理するには多額の費用が必要なため放置されたままになっておりました。そこで「NPO 海の達人」は白塚漁業協同組合（旧河芸町漁業協同組合）と協力して「マリン塾かわげ」を発足し水産庁助成事業の「水面多面的機能発揮対策事業」として干潟の保全活動を実施しております。活動を開始して7年が経過し第1回目と比較するとかなりゴミの量は減ったものの依然、不法投棄はなくなることはありません。

田中川干潟とは

本格的な湖沼型の干潟であり、三重県の鳥であるシロチドリや県の天然記念物に指定されているハクセンシオマネキの生息地としても有名である。昭和28年には「伊勢の海県立自然公園」に指定され自然生えのハマボウフウが群生しアカウミガメの産卵地でもある。また四季を通じ多くの渡り鳥が飛来し多くの希少生物の生息地ともなっている。2020年には三重大学の学生さんにより絶滅危惧種のトビハゼが発見されました。

14 海の豊かさを
守ろう



コロナ禍でも密集せず楽しみながら海をきれいに保つ
SNSを活用したビーチクリーン活動を始めました
宝さがし・プラスチックアートなどゴミを楽しむ

中日新聞 2020年7月29日号に掲載されました。
Instagramでビーチクリーンの写真を投稿する
コンテストを開催中！若い世代の方にも楽しみなが
ら一緒に海をきれいにする活動を始めました。
#（ハッシュタグ）マリーナ河芸ビーチクリーンコ
ンテストの文字とともに写真をUPしていただいで
おります。



写真左：マリーナ河芸前浜でゴミ拾いする子ども
写真右：海洋プラスチックを使用したアート作品
いずれも一般の方が投稿してくれた写真です。

市内各地 団体や地元住民が清掃活動

たい」と話した。

河芸町東千里のマリーナ
河芸は六月末から、会員制
交流サイト（SNS）のイ
ンスタグラム上でビーチク
リーンコンテストを開いて
いる。地元自治会と清掃活
動をしていたが、今年は新
型コロナの影響で中止を決
めた。しかし「海が汚れて
いるので手伝いたい」との

声寄せられ、人が密集し
ない形での活動を考えた。
マリーナ河芸事務所でご
み袋の配布と回収を行い、
参加者は浜辺で拾ったごみ
の写真を投稿する。期限は
設けず、月に一回、投稿の
中から優秀賞を決めてプレ
ゼントを贈る。担当者は
「一緒に海をきれいにする
意識を持ってもらえれば」と
参加を呼び掛けている。



定期的にゴミ拾いを実施
SNS上で呼びかけをしています。



1回に集まるゴミの量



ゴミ拾いと共宝さがしも実施
親子で参加してくれる方も

本プロジェクトの主旨

マリーナ河芸前の海岸では毎年海水浴やマリンスポーツなど多くの人で賑わいます。それに伴い空き缶、空き瓶、ペットボトルなどの飲食物のゴミや花火のゴミをそのまま放置されていく方が多く海岸利用者のマナーの低下に直面しております。また台風後に流れ着くゴミも大変多い状態でありです。マリーナ河芸内にある三重マリンセンター海の^{まなびや}学舎では毎夏、学校や団体の宿泊研修客を受け入れ活動の一環としてビーチクリーン活動を行い子どもたちと一緒に海洋汚染問題に取り組んでいます。現在は、新型コロナウイルス問題で宿泊研修のキャンセルが続いております。こういった背景を受け人が密集せずに海岸の清掃活動を楽しみながら行う方法を模索した結果、会員制交流サイト（SNS）のInstagram上でビーチクリーンコンテストを開くことになりました。この活動を通じて若い世代にも楽しみながらともに海をきれいにする意識をもっといただくことを目的としています。またSNS等で呼びかけ定期的
に一般ボランティアの方とともにビーチクリーン活動を実施しています。

新事務所オープン

新拠点 「Base Of Tokyo」 3月にオープン



日本マリン無線協会東京通信所・NPO 海の達人東京事務所・(株)ダイイチ東京支店として 2020 年 3 月 東京都品川区天王洲シーフォートスクエア内 1 階にオープンしました。

マリーナ河芸 30 周年

「マリーナ河芸で無告知花火開催」

平成 2 年 3 月 8 日に設立総会を開催しマリーナ河芸は発足しました。開業以来バブル崩壊、リーマンショックと続き「失われた 20 年」とも称せられる長い経済不況も乗り越え 2020 年設立 30 周年を迎えました。これまでお世話になった物故者の方々へのご供養と新型コロナウイルスの疫病退散の願いを込めて 9 月 12 日に花火を打ち上げました。この花火は新型コロナウイルスの影響による三密を避けるため一般の方への開催事前告知はせずシークレット花火として 5 分程度打ち上げし全国で繰り広げられる花火大会が開催を見送られる中、地域住民の方へのサプライズという意味もこめて打ち上げました。

ヤマハ発動機元社長 ダイイチグループ代表

「長谷川至氏 × 服部正樹 対談 ZOOM 生配信を行いました」

花火打上 30 分前ヤマハ発動機元社長 長谷川至氏と弊社代表 服部正樹による対談を ZOOM アプリを使って生配信を行いました。当初、長谷川氏には自宅より ZOOM で花火をご覧いただく予定でしたが急遽、河芸にお越し下さり対談が実現しました。



ダイイチグループでは様々な SNS で情報発信をしています。チャンネル登録お願いいたします。



マリーナ河芸



海の乗馬倶楽部
エルカバージョ



伊勢志摩チャーターズ
JAPAN



株式会社ダイイチ
マリン事業部



DAIICHI Group
総合チャンネル

